

平成二十九年度

別府史談会 市内史跡見学会

矢 島 嗣 久

3 角清水跡 浜脇二丁目二三―一

荒金藤子、浜脇二丁目二三―一〇、
長野慶次氏宅の玄関下、昭和四八年（一九七三年）頃、
新築。

「むすぶより はや齒にひびく 志水哉」 松尾芭蕉の句
碑

日 時 平成二十九年八月二十七日
集合同所 JR東別府駅

句碑は現在、長松寺（朝見一丁目）に移転している。

角清水→丸清水→長松寺に移転。

1 JR東別府駅

東別府駅開業 一月一日 駅名「浜脇停車場」
昭和九年（一九三四年）九月「東別府駅」と改称

大分駅―西大分駅―仏崎トンネル―

―浜脇駅―別府駅

その他の頃の交通網の整備

4 荒金 久邸

明治三二年（一八八九年）の建物をそのまま保存して
いる。

時代にながされない生き方を貫いている。清楚に管理、
自然と共生している。

新建材・サッシ・空気清浄機とは無縁である。

赤い顔料、ペンガラ、八畳の座敷、四畳の前座敷、六

畳の中の間、三畳の納戸、四畳の玄関の間、ふすまを取

り払えば、大きな広間となる。

玄関前の大きな石は車除け？

荒金久、平成八年（一九九六年）死去、小学校校長。

2 丸清水 浜脇二丁目一三一―三

とうふ屋、清涼飲料水、ラムネ、サイダー、コーヒー、

お茶、寿司屋等が利用していた。現在、ポンポ式。

5 榊屋 浜脇一―一―一五 糸永駿郎

「榊屋ギャラリー」として一般市民に開放。

(一) 江戸時代 庄屋

(二) 明治四年(一八七二年)の建築

(三) 当主——糸永なな(二〇代目) ↓活け花 小原流

最高位

(四) 祖先 大友家家臣、赤野城主、雄城おぎ一族

6 HOPE賞の家 浜脇一―一〇―四

糸永、財前家、HOPE賞を受賞、財前昭二、糸永、榊屋の前にある。

以前は陶器店を経営していた。

7 阿部京商店 浜脇一―九―三

別府で最初のアーケード式商店街。

8 大友浜脇館跡 (現在位置、浜脇中学校、崇福寺)

天文一九年(一五五〇年)二月、二階崩れの乱の際、大友義鎮(のちの宗麟)が別府浜脇の大友館にいた。

9 長覚寺 下ん寺、浄土真宗大谷派(東本願寺)、本尊は

阿弥陀如来立像

永享年間(一四二九―一四四〇)僧円信の開基。

門前に松尾芭蕉の句碑「月影や 四門余宗も 皆一つ」

芭蕉の句碑の横に、住職の句碑も並んである。

10 崇福寺そうふくじ 上ん寺、浜脇二丁目二区

禅寺、文永三年(一二六六年)宇佐八幡の朝見郷、神かみ大和守政長の建立。文和三年(一二三四年)、雄城おぎ若狭

守源親重が再建、臨濟宗、本尊は釈迦如来座像。

11 宝満寺、田の口、バス停前、

境内の案内板の内容を下に記す。

宝籠山宝満寺

天台宗ご本尊十一面観世音菩薩立象

九州西国観音霊場第七番札所

別府で一番古いお寺といわれ、養老二年(七二八年)に仁聞菩薩により、堂宇が建立されて宝満寺と

名付けられたという古刹である。

奈良時代には朝廷から山林や水田を、鎌倉時代には大友氏から寺田四〇〇町歩の寄進を受けて栄えたといわれるが、たびたびの火災に遭って衰えたものの江戸時代に再興された。

寺はもと田の口村の山中にあったが、大正二年（一九一三年）現在地に遷座した。境内は浄く手入れされ、また冥界の道が整備されている。



宝満寺（別府市田の口）

12 平尾邸 浜脇二一八七七

大正三年（一九一四年）に工事開始、大正六年（一九一七年）に完成。

敷地六〇〇坪（約二、〇〇〇㎡）。別府財界の第一人者、平尾謙平が建築。

浜脇貯蓄銀行、浜脇銀行、頭取。